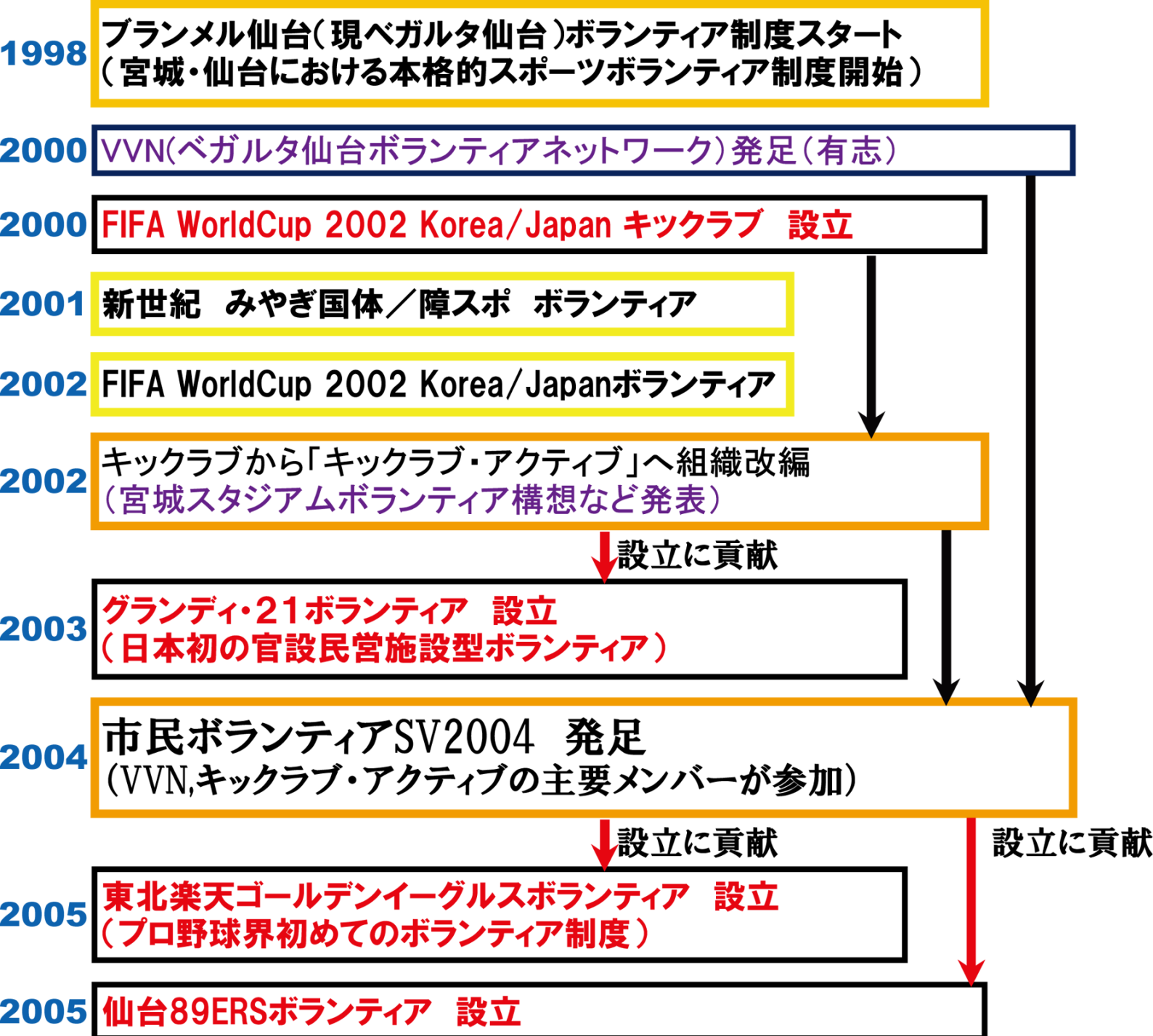


仙台・みやぎのスポーツボランティアの歴史

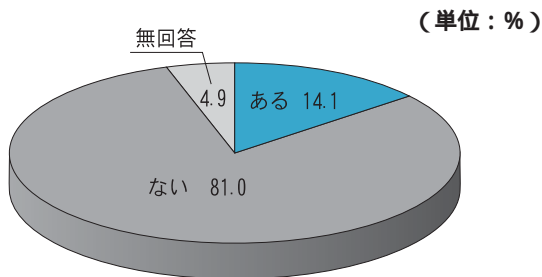


ト スポーツボランティアの育成と活用

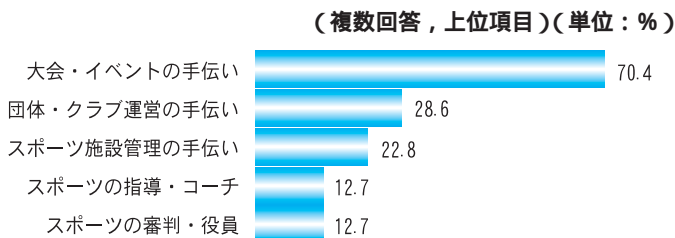
第56回国民体育大会、第1回全国障害者スポーツ大会や2002FIFAワールドカップが成功を収めた背景には、「する」スポーツと「みる」スポーツの活動を支えた大勢のスポーツボランティアの活躍がありました。スポーツボランティアには、全国レベルの大会やスポーツイベントの運営支援だけでなく、地域における日常的なスポーツ活動の指導やスポーツクラブの運営などにおいても重要な役割を担うことが期待されます。

このため、これらの大会で培われたボランティアの輪を広げながら、スポーツを“ささえる”人々を増やすことは、本県のスポーツを全般的に振興する上で極めて大切なことです。

県としては、宮城県総合運動公園（グランディ・21）内の宮城スタジアムの運営を補完するボランティア組織を充実するための支援や、スポーツ関係団体と連携しながら、市町村等に設置されている各種ボランティアセンターに、スポーツ活動の場などの情報を広く紹介していくこととします。また、地域の人々の身近なスポーツを支援するスポーツボランティアを育成するため、市町村における研修機会の確保について働きかけるとともに、ボランティアを活用する側のマネジメントに関する研修機会の確保に努めることとします。



グラフ8-1
過去1年間のスポーツボランティア活動経験



グラフ8-2 行いたいスポーツボランティアの内容



第1回全国障害者スポーツ大会
「翔く・新世紀みやぎ大会」